

新和建設 だより ～新和のわ～

vol. 5

2026年8月25日発行



維持部門 **小間 玲司**

新卒で飛び込んだ土木の世界で、現場管理に向き合う小間玲司さん。周囲との絆に助けられながら成長し、自らの仕事が形として残ることに大きなやりがいを見出しています。現場の最前線でインフラを支える若手社員の、仕事への取り組み方を聞きました。

土木業界を志したきっかけと、 入社当初の様子をお聞かせください。

幼い頃に、土木関係の仕事をしていた父の現場を見に行った経験が原点です。作業員が重機を動かす姿や、楽しそうに働く様子に強い憧れを抱いていました。進路に悩んでいた時期に、親戚である河村さんから声をかけられたのが後押しとなり、当社への入社を決め

ました。

学生時代は自らリーダーシップを取るタイプではなかったため、入社当初は現場管理という仕事に戸惑う日々が続きました。新卒で右も左も分からず、どのように進めればよいのか手探りの状態。悩んでいたとき、親身になって話を聞いてくれたのが父です。職種は違えど、身近に相談できる存在の言葉に救われながら、少しずつ前を向くことができました。

現場管理の難しさと、 壁をどのように乗り越えてきた のか教えてください。

現在は草刈りなどの現場において、警備員

を含めて10人規模の作業員をまとめています。それぞれ経験も異なる職人たちに的確な指示を出す役割です。全員に1つの目標に向かって動いてもらうのには、今でも大きなプレッシャーを感じます。

現場で失敗して落ち込むことも多々ありますが、周囲の支えで乗り越えてきました。特に協力会社の職人さんたちは、全員が仕事の大先輩です。失敗したときも「次からこうすればいいんじゃないか」と励ましやアドバイスをくださり、何度も救われてきました。プライベートでも一緒にご飯を食べに行ったり飲みに行ったりする関係性で、作業中には聞きづらいちょっとした仕事の相談や、業務中には話せない本音を打ち明けています。

また、高校の同級生であり、当社で働く沼山さんの存在も欠かせません。互いに悩みを相談し合い、ときには愚痴をこぼせる関係のおかげで、日々の業務に前向きに取り組んでいます。

日々の業務の中で、特にやりがいを 感じたエピソードを お聞かせください。

チーム全員で協力して作業を終え、数日後にその現場を目にした瞬間に湧き上がる達成感は何物にも代えがたいものです。2025年の秋、東町で担当した中央分離帯の工事は強く印象に残っています。土砂を取り除いて砂利を入れ、防草シートを張った上で、オレンジ色の反射板がついたデリネーター（視線誘導標）を何十本も立てていきました。

工事が終わった後、プライベートで夜に出かける際にあえてその道を車で走ってみまし

た。暗闇の中で自分たちが立てたデリネーターが綺麗に並んで反射している光景を目にしたときは、自分の仕事が形として残っているという深い達成感を味わいました。他にも、現場周辺の地域住民の方々からお礼や労いの言葉をかけてもらったとき、胸が熱くなり「この仕事をやっていて良かった」と心から実感できます。

仕事をする上で大切にしている ことや、これからの目標を 教えてください。

常に意識しているのは、「チーム全員で楽しく働き、やるべきことはしっかりやる」という姿勢です。現場の円滑な進行のためにも、これまで築き上げてきた職人や仲間たちとの良好な人間関係を大切に守っていきたいと考えています。

現在の目標は、建設機械施工管理技術検定2級に合格することです。勉強するのは実は昔から苦手ですが、目標のためになんとか取り組んでいます。専門用語が分からないときは、まず自分で徹底的に調べるのがマイルールです。それでもどうしても分からないときに初めて職人や先輩に教えを乞うようにしています。身につけた知識を別の現場で活かせたときの喜びが、学びの原動力になっています。

未経験からスタートし、周囲への感謝を胸に日々現場と向き合う小間さん。任された仕事に実直に向き合いながら、一歩ずつプロフェッショナルへの道を歩んでいます。

現場のケーススタディ！

失敗 から 学ぶ

教訓

現場でうまくいかなかったことや、ヒヤリとした出来事の裏には、明日からの仕事に活かせる貴重なヒントが隠れています。今はベテラン社員の一人である、工事部の佐山さんも、過去の経験を「学び」として、活かしてられました。当時の状況と学びを、皆さんにも共有してもらいます！

さ やま ゆう いて
工事部 **佐山 祐逸さん**

教訓を得た過去の現場

**大規模現場における測量作業で、
想定とズレが出てしまった……！**

5年ほど前、数か月に及ぶ大規模な工事を担当したときのことです。現場にはH形の鋼材を打ち込む必要があり、その数は通常の案件を大きく超える膨大な数に上ったと記憶しています。こうした現場の状況も考慮し、会社に相談の上、単独でも作業ができる専用の機器を導入してもらうことになりました。採用したのは、ミラーの高さを変える度に入力をし直しながら使用する測量機です。しかし、当時は都度の設定変更に対する確認が不足しており、後工程に移る際に想定と異なる状況になってしまっていることがわかりました。

後輩の皆さんへメッセージ&アドバイス

**勇気を出して周りに
相談してみよう**

1人で現場に出ることも多いかと思いますが、どのような現場でもまずは、日頃の報連相を意識してみてください。年上の職人さんや先輩に話しかけづらいと感じることもあるかもしれませんが。しかし仕事では、**言いづらいことこそ、冒険に出るような気持ちで勇気を持って口に出してほしい**と願っています。私自身も、皆さんが話しやすいよう自ら声をかける癖をつけようと考えています。

当時の状況と対応

**同僚へ即相談し、
無事に施工を完了**

まず行ったのが**周囲への相談**です。当時現場には、途中から技術系の同僚が応援に来てくれていました。落ち着いて一緒に検討し、結果的には品質上の基準を満たしていることを確認した上で、適切に工事を完了させることができました。同僚という相談相手がいたことに、とても助けられた出来事です。

経験を通じた学び

**作業手順の厳守と、
こまめな報連相の重要性**

この経験から、**作業手順を厳守し、こまめに確認をする**ことの重要性を痛感しました。加えて、現場でのコミュニケーションも重要だと感じています。当時は協力会社の方が状況に気づいて**すぐに報告**してくださったおかげで、大事に至ることなく工事を終えることができました。

小間さんを
もっと深掘り！

好きなこと 教えてください

日々の仕事から離れ、自分だけの時間をどう過ごすか。今回は、巻頭インタビューに登場した小間さんが夢中になっている「趣味」を深掘りします。明日への活力を生み出すリフレッシュの秘訣と、その魅力に迫りました。

私の趣味は……

「ドライブ」です！

**好きになったきっかけ
家族の思い出とマイカー**

小さい頃、夏の暑い日や夜に家族みんなでドライブに出かけた楽しい思い出があり、当時から車に乗ることが好きでした。自分で運転するようになったきっかけは、高校を卒業して仕事を始め、自分の車を持ったことです。今では、休みの日はもちろん、夜に時間ができたときなどにもよく走りに行きます。



愛車

維持部門

こ ま れ い じ
小間 玲司さん

趣味の楽しみ方

行き先未定での出発！

だいたい週末に行くことが多く、気分次第で出発します。特別な準備はいらず、着替えて車に乗るだけですぐに出発できる手軽さも気に入っています。行き先は毎回決めずに、ふらっと走り出ることがほとんどです。車を走らせながら「どの方面に行こうか」と考える時間を楽しんでいます。

同僚と遠出することも

1人で何時間も走ることもあれば、会社の同僚であり高校の同級生でもある沼山さんと一緒に行くこともあります。夜遅い時間にふと思い立って、函館や小樽まで遠出することもしばしばです。沼山さんとは同じ職場に入ってから仲良くなり、今では良いリフレッシュの時間を共有しています。

ドライブの魅力

心身ともにリフレッシュ！

私にとってドライブは、気持ちを切り替える大切な時間です。悩み事があるときや気分が落ち込んでいるときでも、好きな音楽を流しながら走るとリフレッシュできます。運転中は余計なことを考えずに済むため、頭の中をすっきりさせるのに最適です。これからも、自分らしいペースでドライブを楽しんでいきたいと思っています。



函館での1枚